夕方の時間の片付け場面にみられる多様なかかわり

―A 認定こども園における事例から―

武笠　里紗*

Diversity in Clean-up Situations in Evening Hours:

From the case of an ECEC center

Risa MUKASA

Abstract

This study reveals how children clean-up in the evening hours while interacting with people outside of their class. This research was carried out in the evenings in a classroom at an Early Childhood Education and Care (ECEC) center. Children ages 3 to 5 were observed once a week for three months. Focused on who the children were cleaning-up with during the evening hours, three categories were generated: children of different ages, teachers who are not homeroom teachers, and parents who came to pick up the children. There were diverse relationships beyond the class boundaries, not only with children in the same class and their class teachers. The results suggest that there are various types of relationships in clean-up situations in the evening hours that are characteristic of evening childcare. The findings suggest that the clean-up situations, which are unique to the evening hours, provide children with encounters and relationships that are not available in daytime childcare.

Keywords: clean-up, ECEC center, evening hours, diversity, children's life

1　問題と目的

1.1　問題の所在

幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、満 3 歳以上の園児の教育及び保育について、領域「健康」に「身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする」とある。このように、幼児期において基本的な生活習慣を身に付けることは重要な要素であると言える。また、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説では、遊んだ後を片付けるなど、皆が一緒に過ごすために身に付けることが必要な生活の仕方について、そのやり方や必要性に気付き、自分たちの生活の場を生活しやすいように整える体験を繰り返しながら、次第に見通しをもって行動できるようになっていくことが大切であると示されている。こうした生活習慣は無理に身に付けるものではなく、友だちや保育者と共に過ごす園での生活の中で徐々に習得していくものであり、それによって見通しをもった行動ができるようになって

キーワード：片付け、認定こども園、夕方の時間、多様なかかわり、子どもの生活

* お茶の水女子大学大学院博士前期課程

いくのだと考えられる。本研究では、こうした生活習慣の中で、園生活における「片付け場面」に着目することとする。

また、1980 年以降、共働き世帯は年々増加している。1997 年以降は、共働き世帯が専業主婦世帯 (男性雇用者と無業の妻からなる世帯数) を上回っており、特に 2012 年頃からその差は急速に拡大している。2020 年には共働き世帯が 1240 万世帯、専業主婦世帯が 571 万世帯と、その差は 2 倍以上になっている (内閣府, 2021; 厚生労働省, 2021)。こうした共働き世帯の増加に伴い、遅い時間まで園で過ごす子どもの人数も増えている。特に認定こども園[1]では、平成 23 年度に 762 園あった園数が令和 3 年度には 8585 園と急速に増加しており、多様な教育・保育ニーズに伴って子育て支援も量と質の両面において拡充されている (内閣府, 2021)。その中で、満 3 歳以上の子どもの認定こども園における 1 日の生活に着目すると、日中の保育すなわち教育課程に係る教育時間においては、1 号認定[2]及び 2 号認定[3]の子どもがいるのに対し、夕方の時間の保育すなわち教育課程に係る教育時間終了後の時間においては、1 号認定の中で預かり保育を利用する子どもと 2 号認定の子どもだけがいる時間帯となる。つまり、1 日の保育の中で、時間帯によって園にいる子どもの人数が変動するのである。

こうした認定こども園の特性をふまえて考えると、日中の保育ではクラスでの活動やお弁当・給食など次の活動に備えてクラス全体で片付けが行われるのに対し、夕方は徐々に子どもの人数が少なくなることに伴って、日中とは異なる形態で片付けが行われるのではないかと考えられる。よって、夕方の時間の片付け場面に着目することは、日中の保育での片付け場面とは異なる夕方の時間ならではの片付けの形態を考えていく上で意義がある。そこで、本研究では認定こども園における片付け場面の中で、特に夕方の時間に着目することとする。

1. 2　先行研究

1. 2. 1　日中の保育における片付け場面

保育における片付け場面とは、松田 (2006) によれば、物を使った遊びや計画された活動の終了に伴って始まる活動であり、物をもとの状態に戻して次の活動へと移行していくための準備としての側面を持っている。このような片付けは、子どもにとって物や時間や人とどのようにかかわっていくのかを学ぶ機会として、さらに快適な生活環境の基礎の体験として意義がある (松田, 2006)。そして、平野・小林 (2015) は、片付けを個々の子どもの多様な占有過程の差異を認め合い、物に含まれる他者の意図を理解しながら共有物に戻す過程として捉えることができることを示唆している。つまり、保育における片付けとは、生活場面としての側面を持ち、同時に個々の差異を認め合う力を育む場面であると言えるだろう。

これまでの研究では、日中の集団保育における一斉的な片付け場面に着目したものが数多く存在する。永瀬・倉持 (2011a) は、遊びから片付けへの移行に関して、遊び場面が切り替えやすいということ、そして遊び場面と生活場面である片付けが「楽しい」というキーワードで心理的に継続していることで、無理なく遊びから片付けへと移行できるのではないかと指摘している。そして、3 歳児クラスと 4 歳児クラスの片付け場面を比較した研究では、集団形成の要因と子どもの発達的な要因が影響して、入園や進級当初は混乱していながらも、保育者の援助や指導に加え、友だちが片付けをする姿に影響されながら、徐々にクラス毎の片付けの方法を習得していくことが示唆されている (永瀬・倉持, 2011b)。保育者の援助や指導に関しては、保育者が子どもの年齢や遊びの状態などを見極めた上で、片付け行動を引き出したり維持させたりしており、そうした保育者の働きかけによって、子どもたちは自ら気持ちを切り替えて遊びから片付けへと移行できるようになることが示されている (永瀬・倉持, 2013a)。さらに、片付けにおける保育者の実践知は、保育者が中心となって子どもと一緒に片付ける段階から、保育者による片付けの明示が減少し、間接的でおおまかな指示を行う段階へと、時期に応じて変化する内容を持つことを明らかにしている (砂上・秋田・増田・箕輪・中坪・安見, 2015)。

片付け場面を子どもの発達的な側面から捉えると、子どもたちは年齢が上がるにつれ、まだ遊び続けたい気持ちに自分で折り合いをつけて片付けを開始できるようになることが示唆されている (永瀬・倉持, 2013b)。一方、片付け場面は、日課的な活動を時計の時間に合わせて進めていこうとする保育者と、遊びを続けたい子どもとの間で交渉や調整をしていかなければならない点で、保育者が困難を感じやすい場面であるという (箕輪・秋田・安見・増田・中坪・砂上, 2009)。このように、日中の集団保育における一斉的な片付け場面では、子どもたちは次第に自分の遊びとクラスの活動時間とを調整できるようになるものの、保育者は、子どもたちの「まだ遊びたい」という気持ちから片付けへと気持ちが移行していく場面において、子どもたち一人ひとりにじっくりと丁寧に寄り添うことが時間的な制約やクラスの子どもの人数の多さから難しいと感じているのではないかと考えられる。

1. 2. 2　認定こども園における夕方の保育

認定こども園においては、在園 4 時間で降園する園児もいれば、8 時間在園する園児や、保護者の就労その他の家族の生活形態を反映した状況により在園時間が 10 時間を超える園児もいるように、1 日の生活リズムや園生活の過ごし方が多様である (内閣府・文部科学省・厚生労働省, 2018)。このような特徴を持つ認定こども園において、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、特に配慮すべき事項として「園児の一日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮するとともに、保護者の生活形態を反映した園児の在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、園児一人一人の状況に応じ、教育及び保育の内容やその展開について工夫すること」が挙げられている。金井・前田・杉山・安田・小松 (2016) が、認定こども園における教育課程に係る教育時間終了後の教育・保育に関して、子どもたちの活動の連続性をどのように保障するかという点を課題として指摘しているように、子どもによって園で過ごす時間が異なる中で、1 号認定の短時間の子どもたちが降園した後も、長時間保育の子どもたちが生活や遊びの流れを途切れさせることなく過ごせるよう工夫することが課題であると言えよう。

こうした課題を含みながらも、教育課程に係る教育時間終了後の教育及び保育、すなわち夕方の時間は、「学級とは異なる園児や保育教諭等と出会い、園児の交流や経験が広がる時間でもあり、他の時間帯では見られない育ち合いも見られる」 (内閣府, 2016) 時間帯であるとされている。そして杉山 (2021) は、夕方の保育はその時間ならではの環境とそれに伴う子どもたちの多様な姿があることから、認定こども園における 1 日の保育の中に「夕方の保育」として積極的に位置づけていくことにより、夕方の保育がその時間帯ならではの保育として価値づけることができると示唆している。つまり、認定こども園における夕方の保育は課題を持ちつつも、日中の保育では得られない体験や育ちの可能性を秘めた時間帯であると考えられる。

1. 3　本研究の目的

先行研究では、日中の保育における一斉的な片付け場面に関するものが多く (永瀬・倉持, 2011a; 砂上ら, 2015 等)、夕方の保育における片付け場面に着目した研究はない。また、先行研究から、夕方の保育は生活の連続性をいかに保障するかという課題を持ちつつも、夕方の時間ならではの保育環境やかかわりがあることが明らかになっている (金井ほか, 2016; 内閣府, 2016; 杉山, 2021)。そこで本研究では、夕方の保育において、子どもたちが片付け場面でどのような多様なかかわりがみられるのかを明らかにすることを目的とする。具体的には、まず夕方の保育中にみられた片付け場面において、子どもが誰と片付けを行っているのかを示し、考察する。次に、夕方の保育は少人数の保育となるため、さまざまな年齢の子どもたちの出会いの機会が増える (宮里・田島, 2018) ことから、同じクラスの子どもや自分のクラスの担任ではない、つまり異年齢の子どもや担任以外のおとなと片付けを行っている事例を取り上げ、そこでみられるかかわりについて検討する。

2　方法

2.1　対象園の概要

本研究では、都内の公立 A 認定こども園 (以下、A 園とする) 3〜5 歳児クラスを対象とした。3〜5 歳児クラスを対象としたのは、先行研究において、3 歳児クラスでは保育者主導で遊びから片付けへと移行していく (永瀬・倉持, 2011a) のに対し、5 歳児は園生活での経験と子ども自身の発達とが絡んで、片付けはしなくてはならないものと受け止められるようになっていく (永瀬・倉持, 2013b) と指摘されていることから、片付けといった生活習慣行動の習得が発達している過程である年齢の子どもを観察することは意義があると考えたためである。

A 園 3〜5 歳児クラスは、各年齢 1 クラス編成であり、1 クラスにつき 1 号認定の子どもが 11 名、2 号認定の子どもが 11 名、計 22 名となっている。先述のように夕方の時間は、2 号認定の子どもおよび 1 号認定の中で預かり保育を利用する子どもがいる時間帯となる。担任は各クラス 2 名おり、シフト制での勤務となっているため、夕方の時間も担任のどちらか 1 名は保育に携わっている。加えて、夕方の時間の保育を担当する非常勤の保育者もいる。

また、A 園の保育室は、3〜5 歳児クラスがそれぞれ壁で仕切られているのではなく、オープンスペースとなっている。年齢ごとに大まかなスペースは決まっているものの、子どもたちは自分のクラス以外のスペースにも自由に行き来することができる構造となっている。

次に、A 園における、日中の保育の終わりから夕方の保育にかけての流れを図 1 に示す。

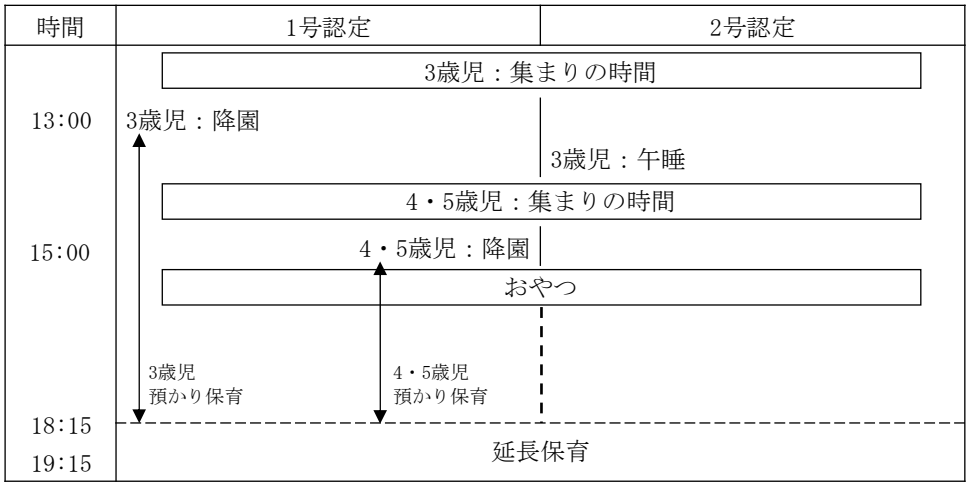

図 1　A 園における午後の保育の流れ

A 園 4・5 歳児クラスでは、教育課程に係る教育時間が 15 時までとなっている。そのため、14 時 30 分頃になると担任の声かけによって片付けが始まり、片付けが終わるとクラスごとに集まりの時間がある。この間、3 歳児クラスは午睡から目覚めていく時間となる (A 園 4・5 歳児クラスは午睡の時間がない)。15 時になると 1 号認定の 4・5 歳児は降園し、2 号認定の子どもたちと預かり保育を利用する 1 号認定の子どもたちはおやつの時間となる。おやつを食べた後、子どもたちは保護者が迎えに来るまで自由に遊ぶ。本研究においては、こうした A 園の保育の流れをふまえて夕方の時間を 15 時以降の時間とし、15 時から延長保育開始前 (18 時 15 分) までを対象とした。

2.2 観察の概要

2020 年 8 月から 2020 年 10 月まで A 園に週に 1 回程度訪問し、夕方の保育の観察 (主に 15 時 30 分〜18

時 30 分) を計 9 回、夕方の保育の特徴をより明らかにするための参考として、2020 年 11 月に 1 回、日中の保育の観察 (9 時 30 分〜15 時) を行った。

本研究では、夕方の保育における片付け場面での子どもたちと保育者の動きを観察し、手書きにて記録をとった。その後、手書きによる記録をもとに事例を電子データとして清書した。加えて、保育室の窓ガラスにビデオカメラ (GoPro を 2 台使用) を取り付け、保育の様子を映像として記録した。オープンスペースとなっている A 園の保育室の構造から、夕方の時間の 3〜5 歳児の主要な活動スペース全体を広く撮影の範囲に収めることができた。

本研究を行うにあたり、「国立大学法人お茶の水女子大学研究倫理指針」を遵守し、研究倫理に配慮した。また、お茶の水女子大学学校教育研究部および A 園に、研究調査等依頼書およびお茶の水女子大学人文社会科学研究「倫理審査申請書」に準ずる研究計画書を提出し、研究の許可を得た。事例等の中では、子どもの名前やクラス名はイニシャル等を用い、仮名で表記している。

2. 3　分析方法

撮影したビデオ映像 (計 9 日間約 23 時間分) および手書きによる観察記録から、子どもが保育室内において複数人で片付けている場面を抽出した。その中で、同じクラスの子ども・担任との片付けと、異年齢の子ども・担任以外のおとなとの片付けに分類した。そして、本研究では夕方の時間ならではの多様なかかわりを対象としたため、異年齢の子ども・担任以外のおとなとの片付けにおいて、子どもが誰と片付けているかに着目し、考察した。松田 (2006) は片付けについて、「散らばっている物を適当な場所に納め、きちんとした状態にする」ことであり、保育の場面で「『かたづけ』の前には、物を使った遊びや計画された活動があり、それらの終了に伴って『かたづけ』が始まる」と述べていることから、本研究において片付けとは、遊びの終了に伴って行われる、ものを元の場所に戻す行為とする。遊びが終了してものを元の場所に戻し始めてから戻し終わるまでを 1 場面とし、異年齢の子ども・担任以外のおとなとの片付けに関する事例について微視的に分析を行った。

3　結果と考察

3. 1　夕方の時間に子どもは誰と片付けているか

夕方の時間にみられた片付けにおいて、同じクラスの子ども・担任との片付けは計 33 場面、異年齢の子ども・担任以外のおとなとの片付けは計 22 場面あった。そして、異年齢の子ども・担任以外のおとなとの片付け計 22 場面について、子どもたちが誰と片付けているか調べた結果、表 1 に示す通り、3 つのカテゴリーに分類された。具体的には、①異年齢の子どもとの片付けは 3、②担任以外の保育者 (他クラスの担任、非常勤の保育者、園長先生) との片付けは 17、③保護者との片付けは 4 あった。なお、場面数の合計と内訳の合計が一致していないのは、一つの片付け場面に異年齢の子どもと他クラスの担任がかかわっているなど、複数のカテゴリーの人が同時にかかわる場面があったためである。

表 1　夕方の時間にみられる多様なかかわり

内訳	数
異年齢の子ども	3
担任以外の保育者 (他クラスの担任・非常勤の保育者・園長先生)	17
保護者	4

A 園では保育室がオープンスペースとなっており、子どもたちは好きなところで自由に過ごすことができる。そのため、遊び場面において子どもたちが異年齢の子どもと一緒に遊んだり、他クラスの保育者と

関わったりしている様子はよくみられる。片付け場面でも同様に、異年齢の子どもや担任以外のおとなとの片付け (計 22 場面) が、同クラスの子どもや担任との片付け (計 33 場面) の 3 分の 2 みられたという結果から、クラスを超えた多様な関わりがみられることが明らかとなった。つまり、夕方になって子どもの人数が少なくなり、遊びや遊ぶ場所の年齢による境目が薄くなってきており、それに伴って片付けにおいても多様なかかわりがみられたと考えられる。特に、①異年齢の子ども、②担任以外の保育者、③保護者の中で、②担任以外の保育者との片付けが最も多くみられたことから、夕方の時間は保育者の担当クラスに関係なく、多様な保育者とのかかわりが増加している時間であると考えられる。

また、A 園の夕方の時間の保育では、保護者がお迎えに来る際、保護者は保育室の中まで入ってくる。そのため、保護者が子どもを迎えに園を訪れた時に、子どもがそれまで遊んでいたものを保護者と一緒に片付ける場面がみられた。これは、子どもたちが同じ時間に一斉に降園する日中の保育ではみられない場面であると言えるだろう。

以上のように、夕方の時間の片付けは、子どもの年齢や保育者の担当に関係なくかかわりがみられ、子ども、保育者、保護者といった多様な人が混ざり合った中で行われていることが示唆された。

3. 2　片付け場面に見られる多様な関わり

子どもが複数人で片付けている場面の中で、同じクラス以外の人と片付けている事例について、具体的にどのようなかかわりがみられるか検討する。前節での結果から、他クラスの子ども・担任以外のおとなとの片付けの中で、3.2.1 では異年齢の子どもとの片付け、3.2.2 では他クラスの担任との片付け、3.2.3 では保護者との片付けに関する事例を取り上げ、それぞれ分析していく。

3. 2. 1　異年齢の子どもとの片付け

本項では、夕方の時間の片付け場面における異年齢の子どもとのかかわりについて事例を挙げながら考察する。具体的には、片付けをめぐる異年齢の子ども同士のかかわりについての事例および異年齢の子どもが片付けを行う際の保育者の働きかけについての事例を取り上げる。

まず、片付けをめぐる異年齢の子ども同士のかかわりについての事例として、4 歳児が 3 歳児の片付けを手伝う様子を取り上げる。

【事例 1：ブロックの片付けをめぐるやりとり】9 月 25 日

3 歳児 A 子が 3 歳児担任の B 先生とブロックの片付けをしている。ブロックをすべて箱に入れ終えると、A 子は箱のふたを閉め、棚に戻そうと箱を持つ。しかし、たくさんのブロックが入っているため箱は重く、A 子は「重たい」と言う。すると、近くにいた 3 歳児 C 男がすっと箱の反対側を持つ。A 子は「C 男くんが手伝ってくれた」と言いながら 2 人で一緒に箱を運ぶ。棚の前まで来ると、箱を床に置く。それを見ていた 4 歳児 D 子が「あとはたんぽぽ (4 歳児クラス名) に任せて」と言いながら、1 人で箱を持ち上げて棚にしまう。

この場面では、たくさんブロックが入った重い箱を棚の前まで運んできて棚にしまう時、ブロックの箱を置く段の位置まで箱を持ち上げる作業が必要だった。A 子と C 男が棚の前に来た時、箱を床に置いたのは、重い箱を運んできていたために、箱を持ち上げる前に床に置いて少し休憩しようとしていたのだと思われる。ここで 4 歳児 D 子が「任せて」と発言したのは、自分より年下の子どもたちが大変そうに箱を運んでいるのをみて、手伝ってあげたいという気持ちが芽生えたのだと読み取れる。これは、子どもの人数が少なくなってきて、年齢に関係なく多様なかかわりが生まれる夕方の時間ならではの場面であったと思われる。

また、4 歳児 D 子は年下の A 子と C 男を手伝う時、「あとはたんぽぽ (4 歳児クラス名) に任せて」と、

自分の名前ではなく自分のクラス名を言っていた。これは、D 子が A 子と C 男のことを自分より年下のクラスの子どもであることを認識した上での発言であると考えられる。

次に、ブロックで遊んでいた異年齢の男児 4 人 (3 歳児の F 男と G 男、4 歳児の H 男と I 男) の片付けと、それに対する保育者の働きかけに関する事例を取り上げる。

【事例 2：異年齢で片付ける子どもたちと保育者の声かけ】10 月 9 日

17 時 45 分になり、A 園 3〜5 歳児クラス全体で片付けが始まる。4 歳児担任の E 先生は、ブロックで遊ぶ男児 4 人のところに来て、「H 男くんたち片付けできるかな」と声をかける。続けて「たんぽぽ (4 歳児クラス名) さんさ、すみれ (3 歳児クラス名) さんに教えてあげてよ、お兄さんたちこんなに早く片付けできるんだよって」と E 先生が H 男と I 男に声をかける。すると、H 男と I 男だけではなく、3 歳児の F 男と G 男も次々にブロックを箱に片付けていく。その様子をみた E 先生は、「やっぱり早い、すみれ (3 歳児クラス名) さんも早い」と言う。

17 時 45 分になると子どもの人数がさらに少なくなり、異年齢での遊びの後、年齢が異なる子どもが一緒に片付けるという場面がみられた。E 先生が「たんぽぽ (4 歳児クラス名) さんさ、すみれ (3 歳児クラス名) さんに教えてあげてよ、お兄さんたちこんなに早く片付けできるんだよって」と声をかけてからは、4 歳児だけではなく、同時に 3 歳児の片付けのスピードも上がった。夕方の時間すなわち教育課程に係る教育時間終了後の教育及び保育については、先述の通り「学級とは異なる園児や保育教諭等と出会い、園児の交流や経験が広がる時間でもあり、他の時間帯では見られない育ち合いも見られる」（内閣府, 2016）時間帯であるとされているように、異年齢の子どもたちによる片付け場面では、同じ年齢・クラスの子どもに限らず、かかわる友だちの幅が広がることが推察される。この場面において、年上の 4 歳児 H 男と I 男にとっては、素早くブロックを片付けることで、自分たちがお兄さんであることや、お兄さんである自分たちができることを 3 歳児の F 男と G 男や担任の E 先生にみてもらいたいという思いがあったと思われる。一方、3 歳児の F 男と G 男も、E 先生の言葉や年上の H 男と I 男が片付ける姿をきっかけにブロックを次々に片付け始めたことから、自分たちもブロックを早く片付けられるということをみてもらいたいと思い、行為を通じてその気持ちを表現したのだと考えられる。

以上 2 つの事例から、夕方の保育における片付け場面では、クラスの枠を超えた子どもとの多様なかかわりによって、自ら進んで片付けを進めていく子どもの姿がみられることが明らかになった。

3. 2. 2　他クラスの担任との片付け

次に、夕方の時間における子どもと担任以外のおとなとの片付けに関する事例として、子どもと他クラスの担任との片付け場面について取り上げる。次に示す事例は、3 歳児クラス担任の J 先生と 4 歳児の K 子が一緒に片付ける場面である。

【事例 3：おしゃべりをしながら他クラスの先生と片付ける】10 月 2 日

3 歳児クラス担任の J 先生はいすに座って、遊んだままになっている机の上のものを片付けている。そこに 4 歳児 K 子が近づく。J 先生が「遊びっぱなしのところを片付けようと思って」と K 子に言うと、K 子は「手伝ってあげようか」と言い、J 先生と一緒に片付け始める。K 子は片付けながら、およそ 1 時間前、K 子が外遊びに出かけようとしたところ、同じクラスの誰かがブロックを遊んだまま片付けずに外遊びに行ってしまったことに気付き、代わりに片付けたという話を J 先生にする。すると J 先生は、「いつもお母さんに、K 子ちゃんがすごく手伝ってくれるって言っているのよ。そしたらお母さん嬉しそうにしていたよ」と K 子に伝える。

この場面では、K 子が J 先生の片付けを手伝ったことや、友だちの片付けを代わりにしていたことに対し、J 先生は、普段からよく保育者の手伝いをしてくれている K 子のことをほめている。さらに J 先生は、K 子の母親によく手伝ってくれる K 子の様子を話しているということ、そしてそうした K 子の様子を聞いて母親が喜んでいることを K 子に伝えている。この事例から、担任以外の保育者も K 子のことをよく知っているということが明らかになり、そうした関係性の中で子どもと担任以外の保育者との片付けがみられるということが分かった。

箕輪・秋田・安見・増田・中坪・砂上 (2017) は、片付け場面の中でも、特に時間に制約がある中での片付けの状況に保育者が葛藤を感じやすいと考え、時間に制約のある片付け場面における保育者の意図と援助について考察している。日中の保育では、お弁当の時間や降園時間など時間を意識しながら片付けを行わなければならない場面がある。一方で夕方の片付け場面では、子どもの人数が少なくなってくると、保育室内の空間や雰囲気、時間も次第にゆったりとした、ゆとりのあるものとなってくる。こうした変化に伴い、本事例に限らず、夕方の時間には子どもや保育者が座っておしゃべりを楽しみながらゆっくり片付けを行う様子がみられた。本事例においても、K 子が J 先生に話しかけ始めてからは、片付けよりもおしゃべりが中心となっていた。このような場面は、クラスの子どもたち皆で協力して片付けを行い、保育室をきれいに整えていくような日中の保育とは異なり、時間の流れがゆっくりになってくる夕方の時間ならではの特徴が片付け場面にもあらわれていると考えられる。

3. 2. 3　保護者との片付け

最後に、夕方の時間における子どもと担任以外のおとなとの片付けに関する事例として、子どもと保護者との片付け場面について取り上げる。次に挙げる事例は、お迎えに来た保護者と一緒に積み木の片付けをする 5 歳児 L 男の様子である。

【事例 4：保護者に片付け方を教える】9 月 25 日

5 歳児 L 男と 5 歳児 M 男が積み木で遊んでいるところに、L 男の父親が迎えに来る。L 男の父親は「L 男くん、お片付けしよう、お片付け」と言う。すると、L 男は「パパと一緒に片付けしたい」と言う。L 男の父親は「パパも片付けるから。どこに片付ければいいの？」と応え、一緒に積み木の片付けを始める。はじめに L 男が「積み木はこっちに入れる」と父親に片付ける場所を説明し、L 男と L 男の父親、M 男の 3 人で積み木を片付けていく。L 男の父親は四角い積み木を片付けていたのだが、途中 L 男は父親が片付けた積み木の箱の中を見ると、「パパ、こういう向きに入れるんじゃないよ。これは真ん中に置くの」と言って、積み木の入れ方を直す。四角い積み木が片付くと、L 男の父親は「L 男くん、三角の (L 字型の積み木) どうするの？」と尋ね、父親が L 字型の積み木を 3 つ重ねて L 男と M 男に渡し、子どもたち 2 人が箱にしまうのを繰り返す。片付けが残りわずかとなった時、M 男の保護者が迎えに来る。たくさんあった積み木は片付け始めてから約 10 分後にきれいに片付いた状態になり、2 人はそれぞれ降園する。

子どもがそれまで遊んでいたものを保護者と一緒に片付けるという場面は、子どもによって保護者がお迎えに来る時間が異なるという特徴を持つ夕方の時間ならではの場面であると言えるだろう。この場面のように子どもがそれまで遊んでいたものを保護者と一緒に片付けるということは、子どもにとって、自分が園で何をして遊んでいたのかを間近でみてもらえたり、保護者に伝えることができたりすることにつながると思われる。同様に、保護者にとっても、自分の子どもが園でどのようなことをして過ごしていたのか、また今どのような遊びに夢中になっているのかを実際に目にすることができる。そのため、自分の子どもの園での様子や成長を垣間見る機会となったり、家庭での会話のきっかけになったりするのだと考えられる。

また、父親が四角い積み木を入れた後、L 男が箱の中を見て「パパ、こういう向きに入れるんじゃないよ。これは真ん中に置くの」と父親に片付け方を説明していた場面があった。これは、L 字型の積み木を箱の左端と右端に入れ、間にできた空間に四角い積み木を入れるという積み木の片付け方のルールがあるにもかかわらず、父親がそのルールを知らずに四角い積み木を箱の端に入れてしまったためにみられた場面であった。つまり、片付け方を知っている子ども (L 男) が、片付け方を知らない保護者 (L 男の父親) に片付け方を教える場面と言える。このようなやりとりは、子ども同士あるいは子どもと保育者との片付けにはみられない場面であると考えられる。

4　総合考察

本研究では、夕方の時間の片付け場面において、子どもたちが自分のクラス以外の人とどのような多様なかかわりを持っているのか明らかにすることを目的とした。

まず、夕方の時間に子どもは誰と片付けているかに着目した結果、同じクラスの友だちや自分のクラスの担任だけではなく、①異年齢の子ども、②他クラスの担任や非常勤の保育者、園長先生といった自分のクラスの担任以外の保育者、③保護者といった、クラスの枠を超えた多様なかかわりがみられることが分かった。そして、子どもの年齢や保育者の担当クラスに関係なく、さまざまな年齢の子どもやさまざまな担当についている保育者、お迎えに来た保護者といった多様な人が混ざり合った中で片付けが行われているということが明らかになった。

次に、事例分析から 3 点が明らかになった。まず、異年齢の子どもとの片付けでは、年上の子どもが年下の子どもの片付けを手伝ったり、年上の子どもが年下の子どもより早く片付けようとしたりするといった場面から、主体的に片付けを進めていく年上の子どもの姿と、それに影響される年下の子どもの姿が捉えられた。また、他クラスの担任との片付けでは、保育者は自分のクラス以外の子どものこともよく知っており、そうした関係性の中で子どもと担任以外の保育者とが一緒に片付けるというかかわりがみられることが分かった。最後に、保護者との片付けでは、子どもと保護者がおもちゃを一緒に片付けることで、園での子どもの様子を親子で共有するきっかけとなったり、子どもが保護者に片付け方を説明するといったやりとりがみられたりすることが分かった。A 園での夕方の保育では、さまざまなクラスの子どもや保育者、保護者といった多様な人が同じ保育室内にいて、子どもたちがこれら多様な人とかかわりながら、時間にゆとりを持ちながら片付けを行うことができる点が夕方の保育ならではであると考えられる。

本研究の結果から、夕方の時間における片付け場面では、「学級とは異なる園児や保育教諭等と出会い、園児の交流や経験が広がる時間」(内閣府, 2016) という夕方の時間の保育の特徴を包含した、クラスの枠を超えたさまざまなかかわりが広くみられることが示唆された。こうした夕方の時間ならではの多様なかかわりは、子どもたちにとって、日中の保育では得られない出会いのきっかけともなるのではないかと思われた。以上から、夕方の時間における片付け場面は、単にものを元の場所に戻すだけではない、さまざまな人とのかかわりのある活動であると考える。

最後に、今後の課題について述べる。今回の研究では、1 園のみを対象としたことや観察日数が少なかったことから、得られた事例数が少なかった。今後は他園においても夕方の時間の保育を観察し、分析することで、データを相対化していく必要がある。また、夕方の時間に加えて日中の保育における片付け場面の観察を行い、それらを比較することで、日中と夕方の保育における片付け場面にどのような違いがみられるか検討する必要があると考えられる。

---

[1] 認定こども園とは、「教育・保育を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設」である (内閣府子ども・子育て本部, 2019)。

[2] 子ども・子育て支援法では、教育・保育を利用する子どもについて 3 つの認定区分が設けられている。1 号認定とは「満 3 歳以上の小学校就学前の子どもであって、2 号認定子ども以外のもの」を意味する (内閣府子ども・子育て本部, 2019)。

[3] 2 号認定とは「満 3 歳以上の小学校就学前の子どもであって、保護者の労働又は疾病その他の内閣府令で定める事由により家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの」を意味する (内閣府子ども・子育て本部, 2019)。

参考文献

平野麻衣子・小林紀子 (2015). 園の片付けにおける物とのかかわり―占有物・共有物に着目して 保育学研究, *53*(1), 43-54.

金井徹・前田有秀・杉山弘子・安田勉・小松秀茂 (2016). 子ども・子育て支援新制度下の幼保連携型認定こども園における課題の検討 尚絅学院大学紀要, *71*, 27-40

厚生労働省 (2021). 令和 3 年版厚生労働白書. https://www.mhlw.go.jp/content/000810636.pdf (2022/3/21 アクセス)

松田純子 (2006). 子どもの生活と保育―「かたづけ」に関する一考察 実践女子大学生活科学部紀要, *43*, 61-71.

箕輪潤子・秋田喜代美・安見克夫・増田時枝・中坪史典・砂上史子 (2009). 幼稚園における片付けの実態と目標の関連性の検討 乳幼児教育学研究, *18*, 41-50

箕輪潤子・秋田喜代美・安見克夫・増田時枝・中坪史典・砂上史子 (2017). 時間に制約のある片付け場面における保育者の援助と意図 保育学研究, *55*(1), 6-18.

宮里暁美・田島大輔 (2018). 〈実践〉こども園をつくる：文京区立お茶の水女子大学こども園の記録 Vol.9「夕方の保育」の可能性を探る 幼児の教育, *117*(3), 32-37.

永瀬祐美子・倉持清美 (2011a). 集団保育における遊びと生活習慣行動の関連―3 歳児クラスの片付け場面から 保育学研究, *49*(2), 189-199.

永瀬祐美子・倉持清美 (2011b). 集団保育における幼児の生活習慣行動の習得過程：「片付け場面」に着目して 日本家政学会誌, *62*(11), 735-741.

永瀬祐美子・倉持清美 (2013a). 集団保育の片付け場面における保育者の対応 保育学研究, *51*(2), 235-244.

永瀬祐美子・倉持清美 (2013b). 集団保育の片付け場面にみる幼児の生活習慣 日本家政学会誌, *64*(6), 289-298.

内閣府 (2021). 令和 3 年版男女共同参画白書. https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/pdf/r03_print.pdf (2022/3/21 アクセス)

内閣府 (2016). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に関する審議のまとめ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に関する検討会. https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/shingi_matome.pdf (2022/3/7 アクセス)

内閣府子ども子育て本部 (2019). 子ども・子育て支援新制度について. https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/outline/pdf/setsumei.pdf (2022/3/21 アクセス)

内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2017). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領.

内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説.

内閣府 (2021). 認定こども園に関する状況について (令和 3 年 4 月 1 日現在). https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/kodomoen_jokyo.pdf (2022/3/7 アクセス)

杉山沙旺美 (2021). 子どもたちは認定こども園において夕方の時間をどのように過ごしているのか?―環境と空間に焦点を当てた参与観察による事例分析から 幼児の教育, *120*(1), 50-61.

砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・中坪史典・安見克夫 (2015). 幼稚園 4 歳児クラスの片付けにおける保育者の実践知―時期の異なる映像記録に対する保育者の語りの分析 日本家政学会誌, *66*(1), 8-18.